

平成 22 年度第 1 回八雲総合病院運営検討会議録(要旨)

開催日時:平成 23 年 3 月 30 日(水) 午後 4 時～5 時 30 分

場 所:八雲総合病院 5 階講堂

出席委員:秋松委員、深澤委員、大野委員、岡嶋委員、松本委員
長谷部委員、鈴木委員

総合病院:院長、事務長、管理課長、管理技術主幹、庶務係長
経理係長、経理係主任

傍 聴 者: 6 名

事務長:ただ今より平成 22 年度第 1 回八雲総合病院運営検討会議を開催いたします。
年度末何かとお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。
まず始めに、前回開催から委員の皆様が変わられておりますので、自己紹介
をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

院 長:総合病院の森岡でございます。本日はお忙しいところお集まりいただきま
して、ありがとうございます。平成 22 年度第 1 回目の運営検討会議でござい
ますが、いろいろなことがございまして、なかなか予定通りの進捗とはいき
ませんが、本日はよろしくお願いいたします。

各委員自己紹介

事務長:総合病院の齊藤でございます。それでは、本運営検討会議は森岡院長を
座長としておりますので、森岡院長の進行で早速、議題のほうに入りたい
と思います。

院 長:それでは、お手元の会議次第にそってはじめていきたいと思います。
事務局の説明を求めます。

事務局から資料により説明。

- ・公営企業改革プランについて
- ・公営企業改革プラン点検、評価について

院長：改革プランの現状につきまして、いろいろ細かい数字もでてきましてご説明いたしました、わかりにくいところもあったかと思います。ご質問等お受けしたいと思います。

委員：経常収支比率について、経常収益÷経常費用ですが7頁と10頁の数値が違うが、理由はなぜですか。

委員：計画数値と見込み数値の違いではないでしょうか。

事務長：7、8頁は3年間で黒字化しなさいという無理やり作成した計画であり9頁以降が点検評価ということで実績の数値となっています。

委員：21年度の決算までで、町から病院へ助成されている額はいくらなのか。

事務長：11頁の「3. 一般会計等からの繰入金の見通し」で平成19年度からの一般会計からの繰入額を記載しております。21年度決算では6億6,326万6千円となっております。

委員：いろいろと数値の説明はありましたが、13頁の収益の減少、患者数の減少の原因についても委員に対して説明してほしい。また、11頁で町からの繰入金も示されているが、これだけを見ると町民は「こんなに出しているのか」と思われると思う。実際には病院があることに対しての地方交付税がある。それは病院が無ければ入ってこないお金であり、町が持ち出すお金は実際いくらなのかということを説明したほうがよいと思う。

事務長：13頁のとおり21年度の実績22年度の見込みを見ましても入院患者数外来患者数と減になっています。病院事務方の分析としては診療科の非常勤化が原因。脳神経外科では1病棟で平均37人くらいの方が入院しております。その方が全て減ったわけではなく内科で診たり部分的にはしていますが、この脳神経外科が入院と外来併せて、年間4億4千万円ほど収益をあげていました。現在22年で、見込みですけど外来収益だけで3千万円くらいしかありません。そうすると前年度と比較すると4億円以上の収益ダウンということになります。ただ、他の診療科で前年度よりプラスとなっておりますので3億8千万くらいの減額となっています。料金収益が落ちている原因は何かといいますと、いろんなことが言えますけど一番大きな話としては、その部分だと私はとらえています。それと11頁の下段に一般会計からの繰入金の見通しが記載してあります。19年度の実績で5億6,326万6千円という数字になっています。町に入ってくる交付税は色がついて入ってく

るわけではありませんけど、1つのルールとして19年度に八雲総合病院を仮に算定したとすると3億1,056万9千円となっています。それを考えると町の持ち出しとしては2億5,200万円ほどということになります。20年度につきましてもだいたい同じ数字で3億1,000万円、21年度では4億2,300万円、国から入ってきています。この表をみますと21年決算では繰出金が6億6,326万6千円となっていますが、国からの交付税も1億以上多くなっていますので町の持ち出しは2億4,000万円という形になっています。22年度は見込みでありましてこれから決算認定を受けるわけですが、12億6,326万6千円の繰入金で、交付税は前年度より5,000万円以上伸びた4億7,900万円と私の方では試算しております。

院長：確かに21年、22年と予想よりだいぶ減少している状況であります。

事務長からも説明がありましたが脳外科の診療の縮小と、その前2年に関しては泌尿器科が医師2名から1名体制に、そして非常勤化となった。ここ数年間でいくと泌尿器科、脳外科の診療機能の撤退は、大学側の事情等いろいろなことが絡んでいるわけでありまして、それが数字のうえではっきりと表れている。ほかの診療科もそれぞれの立場でがんばっていただいています。ベット利用率は今も高率で冬場はほとんど空き部屋がない状況だが、経営は残念ながら厳しい状況が続いております。

委員：繰入金の関係ですが、22年度で12億6,326万6千円、交付税で4億7,900万円だと8億円くらいの持ち出しとなります。脳外科の収入減が4億3,000万円とすると、その他にも収入減の原因があるのではないかと。

委員：本当は21年度で、もう少し繰入が必要だったが、繰り入れなかったためその分も含めて22年度に繰入れたように感じられる。累積欠損金の補填と考えられる。

事務長：新聞報道で皆様ご存知のとおり5億円補正したということで、議会でも説明させてもらっていますが、平成16年から発生した不良債務は19年に若干減ってはいますが増え続けています。ここにきて平成26年度までに不良債務の解消について、国から強い指導がありました。計画的に不良債務をなくしていく中で、22年度で不良債務比率10%未満という指導があったため、町として総合病院を残すためにも決心して5億円を繰り入れいただいたところであります。

委員：病院の場合、黒字病院は人件費比率５０％台が普通と聞いております。それと比べるとちょっと高いと思う。医業収益が伸びなければどうにもならない。他の病院とくらべて、患者一人当たりの診療単価の比較等どうなっていますか。

事務長：町立の病院なので決算を監査室、町へ提出していますが、監査意見書の中にも黒字病院との比較があります。その中で、外来の単価については院外処方を行っていますので単純比較はできませんが、６，７００円くらいになっています。入院については２７，０００円くらいとなっている。ただし、精神科が１００床入っていますので、一般だけでいくと３０，０００円を超えていますので、類似病院と比較すると決して低いということにはならない。ただし、黒字の病院からいくと包括医療等から平均在院日数を１４日以内くらいにして３０，０００円を超え４０，０００円を超えるところもある。うちの病院は高齢者が多かったり地域特性からそれができるかということ、なかなかできないものですから、そういう意味では３０，０００円は極端に高いわけでもなく、低いわけでもない。黒字病院と比較するとやはり劣る。

委員：公立病院なので難しい部分はあると思います。単価を上げるということは患者さんからその分もらうこととなる。

院長：公立病院の中の数値としてはいろいろでていますが、全体としてはあまり大きな変わりはない。例えばある職種の職員一人当たりは、同類の病院よりは高いとかはあります。効率よくやるには急性期を主体とし、すぐ入院・退院させるという形になりますが、地域性を考えるとそれはそれとして。委員の言うとおり少しでも単価をあげようとするとう患者さんの負担が増えることになるが、年に数回は総合的に診て差し上げる。そのことは、患者さんのサービスにもつながるし、病院の収入増につながるということはあると思います。

委員：今月２６日の北海道新聞に交付税の関係記事があり、渡島管内対前年比６．６％増となっており要因としては除雪対策・精神科に係る部分となっているようであります。総合病院の精神科に対する額がいくらなのか。

事務長：町の試算としまして精神科について７，３００万円ほど措置されていると考えております。

院長：よろしいでしょうか。また、何かありましたら承るとしまして、次に「経営形態の見直し」について事務局より説明を求めます。

事務局から資料により説明

院長：経営形態の見直し、地方公営企業法の全部適用の検討であります。大多数の病院、八雲総合病院も含め一部適用でやらせていただいております。都市部、一部の医療機関では事業管理者を設置する全部適用を採用するところが出てきている状況にあります。何かご質問ございますか。

委員：全部適用の必要性和書いているので、全部適用をするという方針の基で委員の意見を求めると理解してよろしいでしょうか。

院長：全部適用を現実的に強く進めているかということ、そういうことではありません。私自身の考え方ですが、他の自治体の場合、病院が独立することが重要であると見受けられますが、八雲の場合は町と病院との連携がよろしいので今までのところは経営形態の見直しを求めるという必要性は感じません。

事務長：町としては公設公営（民間譲渡は考えない）の姿勢。現在、一部適用であるため、仮に変更することを考えると、次の段階は「全部適用」だろうということでもあります。病院として研究はしていますが、当面は一部適用でいきたいということでもあります。

委員：一般町民の感覚でいきますと、悪化している経営を公営企業法の一部適用か全部適用かによって急速的に改善されるものでないと感じる。国の指導により、しかたなく作ったという印象を受けます。地方の自治体病院は大変だと思うが、中には健全経営の病院もあるのではないのでしょうか。それら参考にできるような資料はありますか。

事務長：黒字の病院の指標、例えば人件費比率は50%をきっています。原因として都市から離れているということをよく言われますが、その病院の魅力も含めて、大部分の要因は医師が都市志向になっている。たくさんの医師が集まれば給料を低く抑えてもそこに定着するのですが、そういう意味では地方は割高な費用がかかってしまうと思っています。札幌圏から1時間以内の大きい市立病院で黒字化してる病院の指標は私も目にしています。それをどう目指すかは状況が違いますから単純には言えないと思います。北海道の10箇所の市立病院が毎月患者数、医師数、収支等情報を共有化していて、たまたま目にすることがありました。診療報酬は札幌でも八雲でも一律で、かかる

経費は八雲の方がずっとかかる。そこを目指すには、医師の確保、看護師の確保、費用の削減等たくさんのことがあり、特効薬はない。黒字病院の比較はデータがありますので見ております。

委員：いずれにしても、改革プランで提出している以上、国への報告もあるし、本来の公営企業法の考えかたは全部適用が基本であることから、きちっと検討すべき。私は公設公営を守るべきと思っている。指定管理者の場合は撤退の問題もあり、医療提供そのものが危うくなるという例がけっこうある。医療の提供は不可欠なものであることから、公的責任を堅持していただきたいと思っています。

事務長：民間譲渡等いろんな選択肢があるなかで、公設公営と言いましたけど、全部適用の問題はこれからも続くと思う。

院長：それでは次に再編ネットワーク化計画について、事務局より説明を求めます。

事務局より資料により説明

事務長：補足説明ですが、うちの病院が圏域の病院とどう再編・ネットワーク化するかということは、なかなかできるものではありません。八雲保健所さんを事務局として圏域内の自治体病院等広域化・連携に係る検討会議を実施しております。その中では、医薬品共同購入の検討、医師確保対策での連携等がありますが、ここにありますようなパターンにするという連携には至っていない状況にあります。

院長：昨日も二次医療圏のこれと同じような保健所主催の会議がありました。せたな町ですと今まで3つあった公立病院を1つにして他を診療所化し、どれかのパターンにあてはまるようなことをしていて実際に進んでいますが、国が推奨するこの計画は北海道で広域であるところにはなじまないようであります。昨日の会議で当院に脳外科が無くなったため搬送に時間がかかり困っているということと、ドクターヘリの運用が話題となっていました。新聞にも出ていましたが、この医療圏が人口比で医師が一番少ない地域であります。医師が増えることで、それぞれの病院で特色をだしていけるが、専門医が少ないという残念な状況であります。すぐできることではないが医師を探してこなければならぬと考えています。

委員：八雲総合病院としては圏域内の医療機関へ専門医師を派遣して、連携していると言えないのではないかな。

事務長：これはあくまでも国が示したパターンである。

院長：この地域では充分ではないけど、機能的には連携した医療を展開している。

院長：つづきまして精神科病棟の改築ですが、八雲総合病院としては精神医療病床100床もっております。総合病院として精神科をもっていることにより、救急医療では精神症状を持った患者への精神的な対応が可能であり、これは非常に必要であることから今の精神科を堅持していきたいと思っています。老朽化しており療養環境が悪いことから精神科病棟の改築案として、いろいろと町の方へもお願いしているところであります。

事務局から資料により説明

事務長：補足説明いたしますが、現在の精神科病棟は違法な建物というわけではなく、現在の療養環境からすると相当古く不適切な施設であるということです。また、2年前に基本構想を立て数パターンの中から、八雲総合病院としては12億のコンパクトなものを選択しました。事業費の表では特例交付金と記載していますが、この金額も決定されたものでなく流動的なものであり、不明確であります。事業費決定は7月であり事業採択も未定であります。八雲保健所さんを窓口として採択へ向け努力していますが、希望的数値であり6億円が約束されたものではありません。八雲町の平成23年度予算が3月18日の町議会で議決をいただきました。精神科病棟の実施設計分は当初予算に盛り込んでおります。町長のほうから議会の意見を十分に聞いてから、執行するにあたってはそれを尊重すると口頭で話がありました。議会の中に病院経営健全化調査特別委員会ができて、その意見を十分に聞いた上で町長が判断するということであります。病院独自の改善策等いろんなことを議論された中で実施設計が決まってくるものであり、状況は変わってきているということを補足説明させていただきます。

委員：これは特例交付金が配当されない場合は、やらないということですか。特例交付金とは別にこの年度で実施するということなのか。

事務長：この精神科の改築は八雲総合病院にとってかなり前からの懸案事項でありました。交付金の配当の有無にかかわらず、時限立法で平成22年度から平成27年度まで過疎債があります。交付金が配当されればそれは財源として非常に助かるものですが、過疎債の期限前に完成させたいと町側には意思表示している。町長としても決断をしていただけてますが、町民の声、議会の声等、これから政治的な判断がされると思っています。

委員：交付金の有無に関わらず、病院としてはこの年度で進めたいということですか。

事務長：はい。ただ前段申し上げた状況であります。

委員：先ほどの説明では、23年度の当初予算で実施設計は計上しているということですが、院内保育所の実施設計、用地購入、建築も計上しているのですか。

事務長：当初予算で、院内保育所は実施設計のみ400万円を計上しております。

委員：精神科病棟は老朽化してますし、これからは重要な医療ですので経営状況、財政状況厳しいところはあると思いますが、是非、早急に改築を進めてもらいたい。

委員：前回の運営検討会議は、実際に現場を見学し、これは必要であるという認識で一致し、町へも報告している。

委員：議会の特別委員会で「ノー」という結論がだされたら、断念するということですか。

事務長：私としては答えられない。

委員：特別委員会とは精神病棟改築のためのものですか。

事務長：病院事業全体の経営健全化のものです。発端は、病院経営悪化により町財政が財源負担しているため、それに対する調査であります。その中に精神科病棟改築も含まれていると思います。

院長：今日の運営検討会議での議題は以上でございます。全体を通じて委員のご意見がございましたらお受けしたいと思います。

委員：一般町民としては必要な病院であり経費がかかるのは仕方ないが、年々町から多額の支出は困る。なぜこんなに経費がかかるのか。職員が多いからという声も聞こえてくるが、そうではないという説明も必要だと思う。一般の感覚では「親方日の丸で経営が甘い」というような意見もありますし、町民から信頼される病院であるということが必要だと思います。利用者も増え、経営改善にもつながると思います。

院長：ありがとうございます。必ずしも職員が多いということでもないのですが、そのように見られたということは私のほうから厳しく対応していきたいと思っています。いろいろな状況がありますので、たまたまそのように見えたということもありえます。

委員：大部分はいい看護師さんですが、中には一部態度の悪い方もいるようで、その辺の教育もお願いしたいと思っています。

院長：はい。どうもありがとうございます。

委員：収益を上げるには医師の確保は当然ですが、看護師を増やすことによる収益増もあるので、取り組んでいただきたい。医療は一方的なものでなく、患者さんとの共同作業だと思う。患者さんとうまく連携をとっていくことが病院の信頼にもつながると思う。

院長：看護部をはじめ、各セクションでも患者さんには優しく、誠心誠意対応するという事を一大目標として取り組んでいる。ただ充分ではないところもあるが、誠心誠意やらせていただきたい。

委員：大変経営状況が厳しく、町からの繰出金もありますけれども、八雲から函館市内等へ流れる患者さん、逆に八雲に来る患者さん、いろいろあると思います。八雲総合病院のPRをするためにも、病院自体が信頼されなければ流出は防げないと思う。患者さんとのコミュニケーション、医療だけでなく福祉的なことも必要な気がする。町民から聞こえてきた声の中には病院の悪口もあり、それが広がっていく雰囲気がある。職員の教育が大切だと思います。

委員：私の経験からいって、八雲総合病院は非常に親切丁寧です。都会の病院は機械的です。私は感謝しています。

院長：町民との距離が近いので、その分だけ、そばで聞いていると耳障りといったこともあるかもしれない。それは地元の病院として親しまれる病院なのかもしれない。100%良いわけでも悪いわけでもなく、ある人にとっては不快な感じをお持ちになることがあるのであれば直していく。看護部でも取り組んでいます。なれなれしくするのがいいのか、距離をおくのがいいのか、人によって難しいと思います。地域に密着した病院として気取らずやっていけるのがうちの病院の良いところだと思います。もちろん充分ではありません。これからもお気づきの点がありましたらご指摘いただきたいと思います。今日はありがとうございました。

事務長：長時間に渡りありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。